



宇都宮・長岡地区 21日、支援事業所開所

農業で障害者に働く場

【宇都宮】長岡地区の里山の農地を障害者の就労訓練の場とする「ソーシャルファーム長岡」が21日にオープンする。当面は野菜や果物を生産したり、農産品を加工したりするが、近い将来は農産物直売所やコーヒーショップを設ける計画で、休耕地だった里山の再生につなげていく考えだ。

(篠田裕次)

同ファームは企業組、常勤職員3人で運営する。佐藤賢二理事長は、仕事の都合で農業を母体となつて立ち上り、やめた住民から農地約1・7ヘクタールを借り、空き家となつてきた民家は改装し事務所兼作業所とした。農業継続支援事業所で、地では食用はおらず、知的障害者ら20人を雇い、桑の実、ブルーベリー、

野菜や果物を生産加工

タケノコなどを生産。ヤギを飼って農地の除草に役立てるほか、チーズやせっけんなどの商品化や養蜂業にも取り組む。

3～5年後には農産物直売所を設けたりアイスクリームやコーヒーショップを開いたりするほか、シイタケの菌床栽培や放し飼い養鶏も計画している。

ソーシャルファーム栃木の田中義博事務理事は「農業を核とした就労支援事業所は市内では初めてとなる。担い手不足に悩む生産農



21日にオープンするソーシャルファーム長岡の農場

「ではないか」と期待を掛ける。

開所式は21日午後1時30分から、事業所に隣接するありんこ保育園で開かれる。記念講演会として講師に「おかユニバーサル園芸ネットワークの久保田豊和副理事長を招き「コミュニケーションビジネスにおける農業の可能性」と題して話してもらう。

家では障害者を雇う動機も始めている。こ者者の就労にもつながる80・6612。問い合わせは同ファーム長岡 ☎028・6

休耕地活用、里山再生へ